



発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって事前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

アシュラムセンター常任運営委員の池谷治朗兄が、9月27日に天に召された。彼については、アシュラム誌を通し知ってくださっている方も多いことだろう。39歳の若さで天へと帰っていった治朗兄は34歳の時、口腔底癌の手術をし、余命1年という厳しい宣告を受ける。しかし、その病をきっかけに教会へと導かれ、2017年7月、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団希望キリスト教会の田中清人牧師より洗礼を受け、キリスト者としての歩みを始める。そして、ちょうど受洗した頃に、アシュラムの静岡聖書教室へも通うようになり、元気な間は、年頭アシュラム、各地アシュラム等、積極的に参加し、亡くなる直前まで、携帯電話を枕元に置き、早天祈禱会に参加してくれたい。毎朝、彼の振り絞るような声の「おはようございます」にどれだけ多くの人が励まされたことか。彼と共に祈りたいと、アシュラムの友が何人もこの祈りの輪に加わり、今もそれは続いている。今年の年頭アシュラムで、Zoom画面の向こうにいる彼に手を置き、全員で派遣の按手札を行ったことは、アシュラム誌でも報告した通りである。癌の余命宣告から5年、信仰の告白をして4年、そしてアシュラムの按手の後9ヶ月。治朗兄は、その走るべき行程を立派に走り抜いた。人はそれを、あまりにも短かったと嘆くかもしれない。けれども、彼の短いけれども濃い歩みが、指し示してくれた

瞑想

主が、あなたがたに神の愛とキリストの忍耐とを深く悟らせてくださるように。

2テサロニケ3:5

主幹牧師 榎本 恵

神の愛とキリストの忍耐は、深く大きく、わたしたちの心に刻み込まれている。「主が、あなたがたに神の愛とキリストの忍耐とを深く悟らせてくださるように」(2テサロニケ3:5)。パウロの2回目の伝道旅行の中で生まれたテサロニケの教会。その信徒に宛て書かれたこの手紙については、先の第一の手紙とは違って、それが真正のパウロの書いたものであるかどうか、神学者の間では議論のあるところだそうである。しかし、迫

「神の愛」とは、「キリスト自身の忍耐と同時に、信仰者たちがキリストの再臨を望む忍耐をも言っている」(『現代聖書註解』より)ものなのだ。池谷治朗兄が、その太く短い生涯を通して証してきたのは、まさにこの「神の愛」であり「キリストの忍耐」ではなかったか。希望キリスト教会の牧師は、彼についてこう書いている。「治朗兄は、本当に多くの人に愛された。今、彼の周りには、たくさん『ありがとう』が溢れている。

よう言っていたのは、その痛む体を通しての、真実の忍耐の言葉ではなかったか。彼の最期の姿は、見るに忍びないものであった。頬はこけ、痩せほそり、息も絶えだえ、もう話す言葉もなかった。それでも、彼は私の呼びかけた声に、握った手を無言の姿は、けれども神々しかった。わたしたちの訪問を待っていたかのように、それから数時間後、彼は天へと帰って行った。私は、その知らせを聞きながら、一枚の絵を思い出した。エルグレコの「十字架のキリスト」(国立西洋美術館)。治朗兄の横たわる姿と、その十字架のキリストが私には重なって見えてきたのだ。「神の愛」と「キリストの忍耐」。それは「十字架のキリスト」であり、イザヤの語る苦難の僕そのものなのだ。「見るべき面影はなく、輝かしい風格も、好ましい容姿もない」(イザヤ53:2)。「彼が担ったのはわたしたちの病、彼が負ったのは、私たちの痛み」(イザヤ53:4)。「彼の受けた傷によって、わたしたちは癒やされ」(イザヤ53:5)。「そのわたしたちの罪をすべて、主は彼に負わせられた」(イザヤ53:6)。友よ、君はもうこの世にはいない。それは悲しく、とても辛いことだ。けれども、君が悟らせてくれた「神の愛」と「キリストの忍耐」は、私たちひとりひとりの心に深く刻まれているよ。また再び会う日まで、ありがとう。うじろ。

神の家族 池谷治朗兄、9月27日早朝、天に召されました。

## 弔辞

榎本 恵

いかに美しいことか、山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。

治朗君、君が天へと旅立って行くとうとする、その直前に、ベッドに眠る君に会えたことを、私は、何よりも誇りにしているよ。痩せ細り、静かに横たわる君の姿は、けれどもとても神々しいものだった。清い、美しい、聖なる姿だった。あの時、君は、その細い指で、私の手を、小さく握り返してくれたね。

「恵先生、先に行つて待つてから」とでも言っていたのか、私は、思わず「治朗君、神様は両手を広げて、『よくやった、よく

やった、』と迎えてくださっているよ」と祈つたよ。あの時の君の手は、暖かかった。そしてそれから、数時間後、君は天へと帰っていった。まるで、私たちのことを待つてくれていたかのように。早すぎる。早すぎるよ。もつといっぱい話したかった。キリストの救いについて、信仰や伝道について。君はいつも、言っていたね。「伝道したんだ」と、「福音を宣べ伝えたいんだ」と。遠く滋賀まで、車を走らせ、その都度「今日で、癌の余命宣告から2年になりました、3年にな

りました、4年目になりました」と喜び語り、その命を福音宣教のために用いられたいと駆け回ってくれた。沖繩にも、北海道にも、福岡、四国、あらゆる集会のアシユラム集会に参加し、君は、自分自身の救いと、ご家族の救いを通して、神様の不思議な導きを証してくれた。癌の転移が分かり、動けなく

なっても、君は、パソコンの画面を通して、全国のアシユラムの友を、最後まで励ましてくれた。どの集会にも参加し、いつも開口一番「皆さんの祈りを感じています。」と感謝してくれた。けれども、お母さんから後で聞くと、骨に転移した癌の痛みは、とても耐えられるものではなく、君は「この両足を切つてほしい」と訴えていたんだね。君はそんなことはお首にも出さず、逆に、君からどれだけの人が、勇気づけられ、力付けられ、信じることの大事さを教えてもらったことだろう。

今、静かに眠る君の姿を見る時、私は、私たちの主イエスキリストを思い起こすよ。十字架に磔された、主の足、主の手、

主の脇腹、そして主の御顔。それは傷つき、折れ、痩せ細り、見る影のないものだった。しかし、それは美しい。そしてそれは尊い。なぜなら、それは、私たち人間の全ての醜さを、愚かさを、そして罪深さを背負つてくれるものだったから。治朗君、主の良き知らせ、福音は、決して口先だけで伝えるものではない。そう、君はその全身を通して、その良き知らせを伝えたんだ。語れなくても、雄弁に語り、動けなくても、世界中を駆け巡つたんだ。「いかに美しいことか、山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は」。

君は、そんな美しい足の持ち主だったんだ。いや、だったのではない、これからはずっと、その美しい足で、天と地を結び、私たちに良い知らせを告げて



8月、池谷宅にて、聖餐式。何も食べられなくなった治朗兄、聖餐にあずかることができ、喜びに満ちました。

くれるに違いない。その時、きつとこの悲しみが喜びに変わるに違いない。涙が、笑顔に変わるに違いない。

最後に、君と同じ39歳の若さで、人種差別と戦い続け凶弾に倒れた、マルチンルーサーキングJr.牧師の最後の言葉を紹介するよ。

「私自身、自分の上に何が起きるかはおわかりません。これから相当困難な日々が私たちを待ち受けている。でも私はそんなことはもう気にならない。私は山の頂に登ってきたからだ。私たちは一つの民として約束の地に行くのだ。だから私は嬉しい。私はどんなことにも心が騒がない。どんな人も怖くない。主が栄光の姿で私の前に現れるのをこの目で見ているのだから」



10月、尾崎家にて。池谷兄の写真集に励まされ、祈りの家開催に向けて、祈り合う。(中央尾崎ご夫妻)



9/27 静岡聖書教室午後部の。始まる直前に、池谷兄のお父様来られ、朝、兄が召されたとき…。治朗兄の席は空だが、一緒に参加されていた！

尾崎 恵  
治朗さん。痛みに耐え、最後まで本当にあなたががんばりましたね。あなたの残してくれた沢山の愛が、みんなの心の中に生きていま

す。本当にありがとうございます。天の御国のお父様の元で、ゆっくりお休みなください。  
(池谷兄と同病、祈りの友。Zoom聖書教室、早天祈禱会(Zoom)の友。ご夫妻でのご参加も、祈りの家、始まりますように！)

### 祈りの友 池谷治朗兄へ

の山の頂で、私たちを見守り、その美しい足で、よき知らせを告げてほしい。私たちも必ずそこへ、約束の地へ、行くから。

2021年10月4日  
(宗教法人  
アシユラムセンター  
主幹牧師)

### 365日の早天祈禱会の思い出 櫻本 保郎 (今も続くアシュラムセンター早天祈禱会の源)

思えば365日の早天祈禱会は永かった。何度かへこたれそうになった。特に疲れ切った月曜日の朝の5時半からの早天祈禱会は苦しかった。死に物狂いであった。マンネリズムになやまされた事もあった。祈りに対する疑いに苦しんだ事もあった。しかしどうやら此の峰によじ登る事が出来た。嬉しさで一杯である。小さい事でも続けるという事は本当に大変な事だという事がわかった。

この苦しい早天を続けることが出来た事には二つの原因があったと思う。一つは自分の無力さ否罪深さに対する恐れである。本当に不思議な事だが、神は御言を持ってしばしば危地に立つ私に道を示し、困難を乗り越える力を与えて下さった。感謝でいっぱいである。もう一つは、祈りを合わせてくれた兄弟姉妹のあった事である。熱心に集ってくれた人、問題の解決を求めて集って来た人、求道心に燃えて集って来た人、今頂上を極めた人が眼下に横たわる道をながめ乍ら感慨にふけるように、私の頭にはそれらの人達の顔が走馬灯の如くにまわりめぐって来る。暗かった顔が明るくなって来、御言の核にふれた喜びが一層映えわたるようになって来た様に見える時、私は眠たさにも勝つ事が出来たのである。これらの人に対して感謝すると共に、又一年続けられる事であるが、誰でもよい、何時でもよい、気のむいた時に皆さんが集ってくれる事を心より願うものである、この祈禱会は一昨年の10月1日から始めたのだから、通算すると760回である。一日一章読んで来た旧約聖書も今日は雅歌の一章であった。一枚一枚とまくられて行く間に随分暑くなったものである。もう一年やれば大体旧約を読み終る事である。来年の今頃は、どんなに嬉しい事だろう。全く楽しみである。

戦いなければ、勝利なし。兄弟姉妹も来る年も共に頑張ろうではないか。  
1962年11月4日



橋の下で祈禱会。保郎師(右から2人目) 世光時代、青年伝道を熱心に！和子談。

治朗兄の一言「沖繩にもう一度行きたい！インドにも行きたい！全国まわりたい！！」

6月27日 続く





主幹牧師の2020年度の振り返りと2021年ビジョン(6)

4) 国際正義平和アシュラムと海外アシュラムについて

今年は、二年に一度の「国際正義平和アシュラム」の日本開催年です。昨年、コロナの大変な状況の中、新潟アシュラムの皆様が、国際平和アシュラムの下見を受け入れてくださり、今年開催に向け準備してくださっております。特に、今回新潟の敬和大学の山田耕太学長が、講演をお引き受けくださいました。日本開港地の一つである新潟のキリスト教の歴史について学ぶ、良い機会となると期待しております。また「天上の音楽」を主催なさっておられる日比野則彦様をご紹介いただき、敬和学園のチャペルでコンサートも企画しております。宿泊も月岡温泉「白玉の湯泉慶」と言う立派なホテルです。またオプショナルツアーでは、佐渡島に渡り、当地の三村修牧師のご案内で、潜伏キリシタンの歴史に触れる、そんな計画を立てております。吉澤昭男牧師をはじめ新潟アシュラムの皆様には、本当に大きな力添え、また熱心な祈りをお捧げくださり、感謝です。

日程は、今年度の秋口を予定しております。台湾のアシュラムの友と共に、このコロナ禍を乗り越え、主の平和の挨拶を交わすことができることを祈っております。どうかご期待ください。(2年後に延期になりました)

以上が今年度の主幹牧師のビジョンであります。この他にも、四年後の「アシュラムセンター開設50周年記念事業」について芽出しや、また旧修道場の整備、そして新たな礼拝施設、共同住宅(コレクティブハウス)のビジョンなど数々ありますが、全ては時があることを信じ、「祈りつつ前進」していこうと思っております。

どうか、このコロナの時代の中にあって、暗く長いトンネルの中を手探りで歩いているような状態ですが、必ず、主は成し給うことを信じ、この一年を乗り越えてまいりましょう。皆様の上に、主の恵みと祝福がありますように。(終)

2021年1月22日

アシュラムセンター主幹牧師 榎本恵

バースデーカード感謝のお便りより 小林 宮子

イエスは主です。

Zoomアシュラムにも参加させていただき、霊の糧と恵みの分かち合い、交わりが与えられていることを心から感謝致します。るつ子先生にも何年かぶりかでお目にかかれて感謝致します。美しい花の装いの中に、秋の豊かな実りの中に、いつくしみ、あわれみ深い神の愛の御業を感じています。

「良いものみな神から来るその深い愛をほめたたえよ♪」  
2年後新潟でお会いできますように。(Zoom聖書教室の友)



今年の新潟一日アシュラムファミリー写真。宮子姉 後列右多くの方がご参加。国際正義平和アシュラムへの祈り、共に!

➡広野祈りの家。みことばの分かち合いと、猪瀬姉宅の栗たっぷりおこわ、感謝! 11月には、加古川祈りの家も始まります!



◀カフェちろば聖書入門講座。皆、心開かれ、泣いたり笑ったり。みことばにより、励まし合う時でした。和子母の教え子(世光保育園一期生)も、初参加!

あ と が き

瞑想の中でも触れたが、アシュラムの友、常任運営委員の池谷治朗兄が、9月27日、召天された。享年39歳。誰もが若すぎるその死を思うことだろう。神様は、どうして、このような前途ある若者の命を早々と奪うのか。けれども、池谷兄の祈りは聞かれた。今、池谷兄とともに、祈りを重ねてきた方達に、朝の早天祈祷会に、Zoomで参加してくれている。池谷兄にとつて、これほどの嬉しいことはないだろう。天へ帰った今も、彼は美しい足を持って山々を駆け巡り、その良き知らせを告げていく。神様は、平等ではない、けれども公平な方である。彼は今もその走るべき行程を走り続けているのだ。「皆さんの祈りに感謝します」彼の声忘れられない。(恵)



主題：聖なる道

荒れ野で叫ぶ者の声がある。

「主の道を整え、  
その道筋をまっすぐにせよ。」マタイ3：3

教役者のためのリトリートアシュラム

日時：2021年12月6日（月）～12月10日（金）

場所：アシュラムセンター、アンナ祈りの家、シメオン黙想の家

定員：10名（部分参加できます。宿泊の関係で、各曜日10名になり次第締め切ります）

会費：38000円（全日参加）部分参加は1泊12000円

講師（敬称略）：山岡三治（イエズス会日本管区長補佐）、  
芹野与幸（一粒社ヴォーリス建築事務所顧問）、平野克己（日本基督教団代田教会牧師）、  
リチャード・ガードナー（上智大学名誉教授）、武田光世（ラビリンスウォークジャパン  
世話人・公認心理師）、安田正人（ヨベル出版社長）、  
上内鏡子（日本基督教団神戸イエス団教会牧師）、齋藤篤（日本基督教団深沢教会牧師）

イエスは主なり

この度、コロナ禍にある2021年のアドベント第一週に、4泊5日のリトリートアシュラムを計画いたしました。教派教団を超えて、牧師、司祭、神学者が共に集い、祈りと黙想、分かち合いの時を持ちたいと願っています。

今回は特に、ラビリンスウォークジャパンのリチャード・ガードナーさん、武田光世さんをお迎えし、「聖なる道」をテーマに行きます。他にも、それぞれ講師による講演やワークショップ、また礼拝、コンサートを持ちます。

「われわれはアシュラムこそその道であるとか最善の道であるとは言わない。これは最善の道への道であると言っただけ言う。イエス・キリストだけが道である。」クリスチャンアシュラムの創設者スタンレー・ジョーンズ師の言葉です。教役者にとって、最も忙しいクリスマスの始まりの時ではありますが、忙中であって閑を見出す。どうか、その道を整えるために、ご参加くださいますようお願いいたします。

アシュラムセンター 主幹牧師 榎本恵

アシュラムセンター

〒523-0894 滋賀県近江八幡市中村町567-2

TEL 0748-33-4030

FAX 0748-33-8856

<https://www.ashramcenter.jp/>



中止、又はオンラインに変更もあり。  
ホームページ、電話等でご確認下さい。  
直前の変更の場合あり！

11月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】  
0748-33-4030  
アシュラムセンター

2(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
5(金)	阪神ミニアシュラム (Zoom PM1:00)
8(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
13(土)	加古川祈りの家 (加古川市 小林清子姉宅 PM1:00) <b>New!!</b>
13(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
15(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
16(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)
17(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)
19(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)
21(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)
22(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
24(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
30(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)
12/3(金)	阪神ミニアシュラム (Zoom PM1:00)
12/7(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)

11月のアシュラムなど

2(火) ~ 4(木)	第46回 京浜アシュラム (八王子大学セミナーハウス) 奉仕者 岩波 久一師	048-789-1325 加々美美師
18(木) ~ 20(土)	修道場アシュラム◎ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
23(火)	日本アシュラム連盟 関西アシュラム (大阪クリスチャンセンター) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

12月のアシュラム予定

6(月) ~ 10(金)	教役者のためのリトリートアシュラム
8(水)	合同平和祈禱会
9(木)	クリスマス祝会・コンサート♪

1月以降のアシュラム予定

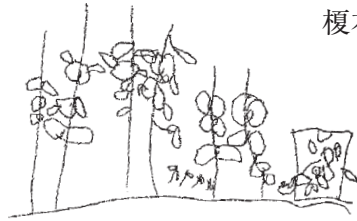
1月27(木)~29(土)	第47回 年頭アシュラム
---------------	--------------



←  
てる子師の写真のそば  
に庭の花を飾り、会話を  
楽しむ和子母。96歳！  
みことば、皆様の祈り、  
信仰に励まされ日々新た  
に。若々しく！

みことば

ノースカロライナ大学院生  
Zoom聖書と学ぶ会  
榎本 空



庭の畑・伊江島 アカバナー(ハイビスカス)も  
咲いているよ 画・空5才時

私たちの内に働く力により、私たちが願ひ  
考えるすべてをはるかに超えてかなえるこ  
とのできる方に、教会で、キリスト・イエ  
スにあって、栄光が代々限りなく、とこし  
えにありますように。 エフェソ3:20-21

私たちの願ひはなんだろう。確かな未来  
の感触だろうか。家族の幸いだろうか。病  
が癒やされることだろうか。世界の不調和  
が調律されることだろうか。いずれにせよ、  
願ひが願ひであるのは、自分であれ、未来  
であれ、身体であれ、社会であれ、そこに  
私たちのちっぽけな力では及ばない次元が  
あることを、私たちがどこかで認めている  
からだろう。そうでなければ願ひする必要など  
どこにもないのだから。そんな願ひが祈り  
と変わるの、私たちが力が及ばないその  
ところに、しかし私たちを超えた力が確かに  
働きたもうという信頼による。

祈りとは、そのように自分を明け渡して  
いくことであり、自分の願ひを託していく  
ことだと思う。いや、そうして簡単には明  
け渡すことのできない自分が、すでに明け  
渡されていたことがつくことであり、  
託すことのできない願ひが既に託されてい  
たのだと知ることだと言った方が正確だろ  
うか。願ひは、祈りへと変えられていく。

ここに 願う 願う 願う  
君が朝を愛するように  
ここに 願う 願う 願う  
その庭を選び今に咲く、花！

(詩：折坂悠太「朝顔」より)

※「福音と世界」新教出版社 11月号、掲載文あり。

(次号につづく)